

令和2年度事業報告

1 概要

【コロナと入館者、事業の中止・延期】 今なお収まりの見えない新型コロナに翻弄された1年だった。元年度終盤、令和2年2月から新型コロナ感染症が広がり始め、4～5月に20日ほど休館。その後は特別展中止(夏＝通常企画展に変更)、講演会の中止・延期、八一祭(8月1日)中止と当初の計画が大きく変更を余儀なくされた。そうした中、展示は例年通り4回実施したが、年間入館者数は元年度の7466人から3453人へと激減。月別で2月3月が前年度を上回ったものの、回復の兆しは不明だ。

【シンボルマーク募集】 中止した特別展に代わり、開館45年記念事業として全国公募した(審査員:写真家・浅井慎平氏、画家の大嶋彰氏、榎谷一代氏)。応募点数は32都道府県から592点(486人)＝個人200点(141人)、学校一括(福島県の坂下中)392点(345人)＝。小学生から80代まで500人近くが會津八一に関心を持ってくれたことは確かだ。最優秀作品は、八一と親交のあった写真家濱谷浩撮影の八一の肖像がモチーフ。浅井氏評「會津八一の存在は鮮烈であり、そのシンボルは會津の立ち姿であろう。このシルエットはこれまで會津を愛してきた多くの人々の心に刻まれており、そしてこれからの新しい時代にも語り継がれていくものだと信じる(後略)」。

【展示】 好評だったのは文学・芸術分野の作家が選んだ「私の好きな八一の書」展(冬)。当館とゆかりある陶芸家や書家、画家に歌人、写真家らが、それぞれの立場や専門の違いによる見方、解釈、その書にまつわるエピソードを寄せてくれた。来館者の評判もよかった。



7～9月、書家榊莫山を取り上げることにしていた特別展は早々に中止を決め、近年新たに購入したり寄贈してもらったりした作品をお披露目する「新収蔵品展」に切り替えた。かな・漢字・画賛どれも名品揃いで、所蔵品の充実ぶりを示すことができた。

春「心の旅」展は、県内外に八一の足跡を追い、ゆかりの作品を集めて八一の業績をたどった。秋「日々新面目あるべし」は戦後、新潟で八一の果たした文化振興活動に焦点を当て作品や資料で紹介した。

【写真コンテスト】 前回は13点上回る165点(107人)の応募があり、しかも初応募が30人と多かった(前回は100人中6人、前々回96人中8人)。洗濯ばさみ写した作品など「撮影対象の幅の広がり、深まり」(浅井慎平審査委員長)と評される作品が目についた。回を重ねるごとに八一の歌(の心)と写真の結びつき方がユニークになっていくようだ。

【講演会】 講師:若月忠信先生(11月、聴衆61人)、講師:野中館長(年明け2月、同116人)の二つのみ。人数を制限したり、体温計を置いたり、感染対策が催しの際の必須条件となった。

【鑑定会】 春秋2回予定したうち春はコロナで中止し、秋のみ実施。初めて新聞の1面に広告を出した。従来出品者は古美術商などの業者が主体だったのが、今回は個人がほとんど。「広告を見た」という問い合わせもあり、効果があったと思われる。

【商品開発】 會津八一の「学規」の中の「ふかくこの生を愛すべし」を染めた明石ちぢみ(十日町の伝統的工芸品)のマスクを販売。夏には八一の墨書をデザインしたうちわ2種を販売。

【奈良へ】 會津八一が薬師寺東塔の水煙をモチーフにした短歌の色紙500枚を、東塔の落慶を祝い薬師寺に寄贈。

【大阪に歌碑】 大阪・河内長野市の観心寺に、地元のロータリークラブがクラブ創立35周年事業として八一歌碑を建てた。観心寺の国宝金堂の本尊「如意輪観音像」を詠んだ歌が刻まれている。「自粛」の中の明るい話題。

2、事業の内容

(ア) 展覧会事業

常設展経費 3,446,639 円(元年度=3,456,207 円=比 0.3%減)

特別展経費 1,303,262 円(元年度=3,620,093 円=比 64%減)

	元年度 入館者数	元年度 開催日数	元年度 入館累計	2年度 入館者数	2年度 開催日数	2年度 入館累計
4月	377	25	377	66	12	66
5月	815	27	1192	67	18	133
6月	572	20	1764	247	25	380
7月	657	26	2421	271	21	651
8月	588	27	3009	243	26	894
9月	1082	26	4091	328	20	1222
10月	740	20	4831	394	27	1616
11月	976	26	5807	529	25	2145
12月	584	13	6391	211	18	2356
1月	387	24	6778	200	24	2556
2月	425	25	7203	447	24	3003
3月	263	25	7466	450	24	3453
合計	7466	284		3453	264	

2年度観覧料収入=総額 921,640 円 (特別展 0 円 常設展 921,640 円)

(イ) 展示事業

【企画展】＝記念館自主企画。本年度は「記念館開館 45 周年記念を展示タイトルの冠」として表記した

①心の旅

会 期：令和 2 年 4 月 7 日（火）～7 月 5 日（日）

開催日数 60 日間（当初 78 日、臨時休館 18 日） 簡易図録 29 冊販売

入館者数：4 7 9 人（前年度＝春「生誕 120 年 天才・山田正平の宇宙～不世出の文人篆刻家～」1,764 人）

會津八一が晩年を過ごした新潟市の、八一ゆかりの関係各所が所蔵する作品資料を中心に、県内外にある歌碑の拓本などを展示した。八一の菩提寺の瑞光寺をはじめ、揮毫の看板を掲げている大阪屋や、「かまつか最中」を販売している里仙などの菓子店、お茶の浅川園、そばの山文など、鑑賞者が訪問できる場所も目録に地図を付けて紹介した。

また、八一が歌人としての評価を確立した歌集『鹿鳴集』が昭和 15（1940）年に発刊されてから 80 年を記念して『鹿鳴集』に関する原稿や、小説家・堀辰雄や批評家・亀井勝一郎が八一の短歌を引用した書籍なども紹介した。

展覧会を企画した当初は、当館周辺にある歌碑やゆかりの店舗を紹介することで、その場所にも巡ってもらいたいと考えていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため、当館職員と一緒に巡るようなイベントの開催はできる状態ではなく、企画前に取り下げた。

4 月 16 日の新潟県の緊急事態宣言発令により、4 月 21 日から 5 月 11 日まで開館日 18 日間の臨時休館、来館者も昨年度よりも大幅減となった。春季企画展は県外からの来館者は 1 年間の中でも割合が多くなるが、今年は 10%（昨年度春 29%）。一方で新潟市民の来館者は 49%から 71%へと大幅に増えた。展覧会の感想は「とても良かった」「よかった」合わせて 100%と満足度は高かったようで、自由記帳欄にも「コンパクトにまとめられたいい展示でした」「新潟のあちこちに数多くあることを再認識した」など、好意的な文章が並んだ。

②新収蔵品展 ～新たなる発見～

※新型コロナウイルス感染拡大のため、特別展「會津八一と榊莫山」展を中止して振り替え開催。

会 期：令和 2 年 7 月 1 4 日（火）～9 月 2 2 日（火・祝） 開催日数 62 日間。簡易図録 50 冊販売

入館者数：7 4 3 人（前年度＝夏「會津八一 書の逸品」2,327 人）

当館がこの 5 年の間に新たに収蔵した會津八一の作品や資料を中心にお披露目した。今回初公開として戦前・戦中、八一が雑誌に発表した 2 作品（《龍安寺》および《火鉢》）の直筆原稿と、有恒学舎（現県立有恒高校）創立者の漢学者増村朴齋に宛てた書簡を紹介した。寄贈作品としては昭和女子大学の副学長を務めた故松本昭氏からの八一の墨蹟 1 3 点も陳列した。

アンケートには、同じ短歌が原稿のときと活字になったときとで表現に違いのあるのを展示資料で知り、「どのように（八一が）直したか確認できて参考になった」や「今回初公開の書簡があり興味深く観賞させてもらい良かった」と、初公開の資料は見ごたえがあったという感想をいただいた。一方、解説パネルの文字が小さくて読みづらいとの指摘も受けた。作品保護のため、照明を落とした展示室内では、よりはっきりとした文字の大きさと要点を絞った解説文を作成することが今後の課題となった。会期中、講演会の代わりに、野中館長による作品解説会を 3 回実施。作品の見どころや書の鑑賞方法について解説し、参加者からも興味深く豊富な内容だったと好評価を得た。

③日々新面目あるべし～會津八一の挑戦

会 期：令和 2 年 10 月 1 日（木）～12 月 13 日（日） 開催日数 64 日間。簡易図録 41 冊販売

入館者数：1 0 7 4 人（前年度＝秋「富本憲吉と會津八一」－孤高の美の求道者たち－ 2,300 人）

晩年まで新面目たらんとした會津八一の書の制作と、意欲的に関わった郷土文化振興に焦点を当てた企画展。

書制作の展示では、書画集『渾齋近墨』、『遊神帖』や、晩年の個展の目録に掲載された当館所蔵の作品を紹介した。八一は作品集などで書作品を発表することに強いこだわりがあったため、掲載された作品はどれも八一が認めた作品といえ、名品が並んだ。

また、八一の郷土文化振興を紹介する展示では、北方文化博物館新潟分館のために揮毫した看板や、北方文化博物館新潟分館が 1952 年以降、一時期名乗っていた「新潟県近代美術館」が所蔵していた関連作品資料を紹介した。新潟県近代美術館と八一の関係を紹介した初めての展覧会となるが、不明点も多く、更なる調査が必要で

ある。

八一と地域文化との関わりがわかる資料として、2020年12月通巻第880号をもって終刊した『新潟短歌』（1946年2月1日創刊、新潟短歌会）の、八一が揮毫した題字の原稿、書簡なども紹介した。2020年は、当館と縁のある短歌結社「砂丘」も終刊し、地元の歌人や文学愛好者と当館をつなげる団体が相次いで消えたことになる。

アンケートでは「静かな雰囲気鑑賞できた」など、展示室内の静寂を喜ぶ声が5件以上あった。コロナ禍でも県外来館者の割合が春季より徐々に回復し、31%と通常時と同程度（昨年度平均29%）に戻った。ただし、多くは東京など関東地方からの来館者だった。

④ 會津八一記念館ゆかりの作家31人が選ぶ 私の好きな八一の書 同時開催 第14回写真コンテスト入賞入選作品展

会期：令和2年12月22日（火）～ 令和3年3月28日（日） 開催日数78日間。簡易図録191冊販売
入館者数：1,157人

（前年度＝冬「會津八一と酒 ～ 一杯一杯復一杯～」同時開催 第13回写真コンテスト入賞入選作品展 1,075人）

今企画展では当館ゆかりの絵手紙作家、俳優、写真家、陶芸家、俳人、茶人、金工作家、書家の方々31人（過去6年間に開いた当記念館主催の講演会の講師または来館者）に記念館の収蔵品のうち81点を示し、そこから好きな八一作品を1人3点選んでその魅力やエピソードを寄せていただいた。展示室のスペースの関係で、主に1人1点ずつの八一作品の紹介となった。簡易図録には選んでいた作品3点を図版で紹介した。

アンケートには、分野の異なる作家のコメントと、その作家の選んだ八一作品に共感を得たという感想が多かった。担当学芸員の解説文とは異なる切り口や見方が、来場者には新鮮だったのかもしれない。

会期中、野中館長の講演会を実施した。八一の書の魅力について、書道の歴史の立ち位置からの視点で語っていただき、来場者からも連続講座の要望をいただいた。

（展示に対する評価）＝入館者アンケート結果（○は好評、△は不評）

回答者数302名（回答率8.7%） ※前年717名 回答率9.6%

展覧会名	作品解説の評価	展示量の評価	全体的評価
心の旅	○ 93% △ 5%	○ 95% △ 5%	○ 100%（とても良かった71%、良かった29%） 普通 0%
新収蔵品展	○ 87% △ 12%	○ 92% △ 7%	○ 95%（とても良かった62%、良かった33%） 普通 5%
日々新面目あるべし	○ 95% △ 2%	○ 83% △ 17%	○ 97%（とても良かった59%、良かった38%） 普通 3%
私の好きな八一の書	○ 90% △ 7%	○ 97% △ 2%	○ 94%（とても良かった68%、良かった26%） 普通 2%
合計	○ 91% △ 7%	○ 92% △ 7%	○ 96%（とても良かった65%、良かった31%） 普通 3%

（接客に対する評価） 良い70% 普通27% 悪いor無回答3%

★総括＝1日平均来館者は昨年割合から約半減したため、アンケート回収数も半数以上減となったが、回収率は0.9%の微減。展覧会ごとの評価のばらつきはあるが、年間の合計は昨年度比ほぼ横ばいで、高い評価を頂いた。

（主な来館者）※当館理事、評議員は除く

＝令和2年＝

4月＝新潟県立歴史博物館副館長高井勝幸氏、経営企画課長酒井裕行氏（7日）、北方文化博物館伊里学芸員（8日）、版画家本間ケイ氏（16日）、新潟県立歴史博物館田辺学芸員（17日）

5月＝書家今井昭友氏（30日）

6月＝勝念寺住職今湊良敬氏（6日）絵手紙作家谷雅子氏（11日）、文化の記憶館理事長長谷川義明氏、奈良教育大学谷川教授、中国・山西大学堀川英嗣教授（12日）、元新潟県立文書館副館長本井晴信氏（20日）、南都屋主人須貝真司氏、BSN竹石松次顧問（23日）書家和田紫陽氏、美術史家山浦健夫氏（26日）

7月＝新潟県立図書館奥山智明氏（2日）、共同通信社長谷川健司氏（3日）、書家佐藤奎玉氏、江川蒼淵氏（5日）、上越市高田図書館関久氏、前新津美術館館長横山秀樹氏（30日）

8月＝シネウィンド斎藤正行氏（18日）、作品寄贈者擣木吾郎氏（28日）

9月＝書家小林畦水氏、三膳春雪氏（15日）、書家川口夢墨氏、トミオカホワイト美術館職員（18日）、作品寄贈者松本昭氏の親族（20日）

- 10月＝中原八一新潟市長、入村明妙高市長（6日）、目黒順三郎氏ご子息（15日）、中央短期大学教授村木薫氏、昭和女子大学研究員早田啓子氏、江戸千家家元川上宗雪夫人、中野宗順氏（18日）、万代市民会館樋口正氏（21日）、吉野秀雄のお孫様ご夫妻（31日）
- 11月＝新津美術館藤井学芸員（1日）、書家薄田東仙氏（5日）、常盤津節太夫鈴木英一氏（7日）、書家樋口志保氏（11日）、北方文化博物館伊藤勝也理事長（17日）、安藤更生氏の娘・天草椿氏（18日）、故亀倉蒲舟の孫、東京大学板倉聖哲教授、新潟県立万代島美術館長嶋圭哉学芸員（19日）、石山中学校阿部修氏（22日）早稲田大学會津八一記念博物館椋橋彩香研究員と石井氏（23日）、写真家浅井慎平氏、若松保広氏（26日）
- 12月＝上越市立高田図書館成田朋紀氏（1日）、新潟短歌会鈴木まき枝氏（6日）、新津工業高校諸橋康二氏、新潟市立柳都中学校柏木茂幸氏（12日）

＝令和3年＝

- 1月＝書家伊藤省風夫妻（16日）、みずほ銀行濱谷健(一)支店長、石原哲也副支店長（20日）、書家眞田景風氏（21日）、西村昌子氏姉妹（22日）、絵手紙作家高山久美子氏、書家坪内雪山氏（24日）、明訓高校乙川桂司氏（26日）
- 2月＝前新潟大学旭町資料館館長橋本博文氏（3日）、新潟市高橋建造副市長（11日）、書家丘山三槐氏（12日）早稲田大学會津八一記念博物館氏肥田路美館長（19日）、江戸千家家元川上宗雪氏（23日）、中野進夫妻と孫（23日）
- 3月＝書家佐藤光堂氏（2日）、作品寄贈者田中光子氏（4日）、新潟市人事委員会事務局長中野力氏、NST事業局部長中野ゆかり氏（7日）中野声楽家小川恒子氏（13日）、書家杭迫柏樹氏（14日）、文信堂西村会長（18日）、書家佐藤雅風氏（19日）、ドナルドキーンセンター吉田真理氏（23日）

（ウ）講演会事業

【記念館自主企画】

①企画展関連 文芸講演会（有料 500円）

テーマ：「會津八一研究50年」

講師：若月忠信氏（文芸評論家）

日時：令和2年11月17日（火）午後2時～3時半

会場：日報ホール

入場者：61人

②企画展関連 第2回文芸講演会（有料 500円）

テーマ：「八一の書の魅力」

講師：野中浩俊（新潟市會津八一記念館館長）

日時：令和3年2月7日（日）午後2時～3時半

会場：日報ホール

入場者：116人

※動画配信 予定していた八一祭記念トークイベント、特別展関連記念講演会および春と夏の企画展関連文芸講演会は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止した。その代わりに、7月31日～9月30日、2019年度八一祭「すがすがしさと優しさ」の動画約80分を4分割してホームページ上で配信。視聴回数1160回、総再生時間66.6時間。

（エ）普及活動事業

①作品解説会

○新潟市會津八一記念館企画展＝講師：野中館長、喜嶋、湯浅学芸員

野中館長：令和2年7月21日（火）、8月18日（火）、9月20日（日）、10月27日（火）

学芸員：企画展会期中 第2、4日曜日 午前11時～正午

②出前講座＝その他の団体主催による講演

・6月17日（水）講義名「良寛禅師の発見者－會津八一と相馬御風－」

主催：新潟青陵大学・短期大学 会場：web授業

講師：喜嶋学芸員 132人

・8月5日（水）講義名「新潟を往来した芸術家たち」

主催：新潟青陵大学・短期大学 会場：web授業

講師：湯浅学芸員 132人

- ・10月20日(火) 講演「名誉市民 會津八一の魅力～マルチな業績と人生～」
主催：新潟市高齢者福祉大学 会場：新潟市総合福祉会館 講師：喜嶋学芸員39人
 - ・12月22日(火) 講演「會津八一について」
会場：胎内市立築地小学校5年生 講師：喜嶋学芸員35人
- <令和3年>
- ・1月17日(日) 講演「會津八一の遊び心～手紙と茶碗と半泥子」
主催：荻川コミュニティ協議会 会場：秋葉区荻川コミュニティセンター 講師：高岡事務長35人
 - ・2月18日(木) 講演「會津八一の魅力」
主催：サロン・サンシャイン 会場：サンシャイン青山(西区浦山) 講師：湯淺学芸員15人

③所蔵品貸出展覧会

- ・巡回展「式場隆三郎 脳室反射鏡」 所蔵品2点貸し出し
令和2年3月14日(土)～5月17日(日) 広島市現代美術館(新型コロナウイルス感染症拡大の為中止)
8月8日(土)～9月27日(日) 新潟市美術館
10月11日(日)～12月6日(日) 練馬区立美術館
- ・新潟県立歴史博物館企画展「戦後75年—私の戦争体験記—」 所蔵品9点貸し出し
令和2年6月27日(土)～8月16日(月・祝) 新潟県立歴史博物館
- ・早稲田大学會津八一記念博物館企画展 所蔵品10点貸し出し
松丸東魚篆刻作品等受贈記念「松丸東魚の仕事～萬象一刀の中にあり～」
令和3年3月1日(月)～4月30日(金) 早稲田大学會津八一記念博物館2階グランドギャラリー

④第13回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

会場	開催期間	備考
1 (中止) 高田まちかど交流館(旧第四銀行高田支店)	4月17～29日	入賞作品7点、複製八一作品
2 いかるがホール(奈良県斑鳩町)	6月1～20日	入賞作品7点
3 中村屋サロン美術館(東京都)	7月8日～8月2日	入選入賞30点
4 三千院(京都市)	8月8日～30日	入賞作品7点
5 奈良県立図書情報館	9月8～22日	入賞入選30点
6 高松市市民活動センター	10月2～29日	入賞入選30点、複製八一作品
7 胎内市産業文化会館(中条會津八一会)	11月12～15日	入賞入選30点

⑤出版関係

- ・八一往復書簡集「雁魚来往」第8集の刊行
編者：雁魚来往研究会(近藤悠子氏、角田勝久氏)
発行：會津八一記念館
形状：A4判 108頁
収録：有恒学舎の関係者・相馬御風と會津八一の往来書簡の図版、読み下し文、註釈、関連資料図版を掲載

⑥その他

- ・博物館実習受け入れ
期間：令和3年1月10日(日)～16日(土)
学生：1人＝新潟大学人文学部人文学科 日本・アジア言語文化学専攻4年生

(オ) 学習講座

- ・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏(文芸評論家)
砂丘館 毎月第1土曜日 受講者13人。費用は参加者負担

(カ) イベント

- ・「會津八一の歌を映す」第14回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費 2,149,839 円）
 - 公募期間 4月から11月（作品搬入11月3日～14日）
 - 応募点数 165点（前回152点）
 - 応募人数 107人〈県内80人 県外27人〉（前回100名）
 - 審査委員 浅井慎平（委員長）、若松保広、和泉久子氏の3氏
 - 審査会 11月26日（木） 14時～17時 日報ホール
 - 審査結果 秋艸道人賞に新潟県新発田市の高澤和也さん
奨励賞は6点（県内5人、県外1人）、入選は23点（県内16人）
 - 記者発表 11月27日（金） 午前10時～
新潟県庁内の県政記者クラブ 浅井委員長、高岡事務長
 - 授賞式 作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
令和3年2月11日（木祝）午後2時～4時 日報ホール 参加人数78人

- ・新潟市會津八一記念館 シンボルマーク募集（総事業費 1,303,262 円）
 - 公募期間 令和2年12月1日～令和3年1月6日
 - 応募点数 692点
 - 応募人数 486人〈県47人 県外439人〉
 - 審査委員 浅井慎平、大嶋彰、櫛谷一代氏の3氏
 - 審査会 令和3年2月11日（木・祝） 16時～17時 日報ホール
 - 審査結果 最優秀賞に東京都杉並区の明星秀隆さん
優秀賞は3点（県内1人、県外2人）、入賞は5点（県内1人、県外4点）
 - 授賞式 令和3年3月13日（土）午後2時～2時半 メディアシップ6階

(キ) 鑑定会

春の部 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

秋の部 令和2年11月1日（日） 総点数21点 認定数17点 収入710,000円（経費91,876円）

(ク) 新収蔵品

- 寄贈
 - 會津八一の墨蹟 22点
 - 會津八一の原稿 1点
 - 會津八一の書簡 4点
 - 會津八一の箱書き入り 陶印 2点
 - 浅井慎平氏撮影写真 53点
- 寄託 會津八一の墨蹟「遊於藝」 1点 合計85点
- 購入 2点（420,000円）
 - 會津八一書画《雁来紅図・爛斑秋色雁初飛》 軸 1点
 - 會津八一書簡 伊達俊光宛 大正3年9月13日 軸 1点

(ケ) 販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間2年度（2年4-5月、3年2-3月）
額装8点 未表装1点 色紙10点 販売合計148,900円

(コ) 広報活動

- ①新聞
〔新潟日報〕
〈記事〉78本（令和元年度・記事107回）

「展覧会へようこそ」 4本（朝刊文化欄）

ほか写真コンテスト入賞作品紹介＝特集、企画展話題、募集・お知らせ記事

< 広告 >

- ・企画展 93本<新潟日報朝刊、おとなプラス>（令和元年度92回）
- ・「学規」販売広告 23本<同>（令和元年度15回）
- ・取扱商品PR 5本<「Tシャツ・扇子」5本＝おとなプラス>
- ・作品鑑定会告知 3本＝朝刊1面
- ・シンボルマーク募集告知 3本＝朝刊1面
- ・名刺広告 2本＝（MS来館1000万人記念広告（「心の旅」展告知、
新年企画＝「私の好きな八一の書」展告知＝朝刊）

< 中央紙、地方紙 >

[読売新聞]

- 記事2回2本（2020年9月18日朝刊「新収蔵品展」紹介記事）
（2020年9月18日夕刊「書の風景 詩書画一体理想の境地」）

[毎日新聞]

- 記事3回3本（2020年8月28日朝刊「新収蔵品展」紹介記事）
（2020年9月22日朝刊「書之美 みほとけの」島谷弘幸）
（2020年10月31日朝刊「今週の本棚」『会津八一 コレクション日本歌人選 村尾誠一著』）

[高知新聞]

- 記事1回1本（2020年7月9日朝刊「小社会」に八一書簡の一節を取り上げた記事）

② テレビ、ラジオ

[BSN新潟放送]

- テレビ：「BSN ニュース ゆうなび」 1本（2021年2月11日放送）
※「会津八一の歌を映す」第14回秋艸道人賞写真コンテスト授賞式

- テレビ・ラジオCM ※名義主催等がないので、放送なし

① 市報にいがた

展覧会＝月1回全12回 イベント案内＝1回（市報にいがた別冊内）

(サ) 学校団体見学

3校59人※＝中学校1校、高校1校、聾学校1校（令和元年度＝22校554人＝小学校4校、中学校16校、高校2校）

6月17日	新潟清心女子高校	17人
9月2日	新潟県立新潟聾学校	21人
10月1日	新潟市立南浜中学校	21人

※例年であれば4～5月、市内中学生が「巡検」で訪れるが、2年度は新型コロナウイルスの影響でこの数字にとどまった。